

平成31年2月9日(土)

# 美濃山遺跡(第8次調査) 現地説明会資料

調査場所 八幡市美濃山出島地内

調査期間 平成30年4月5日～平成31年2月下旬(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3  
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

## 1. はじめに

美濃山遺跡は八幡市南西部の丘陵上に分布します。東方約400mには、奈良時代の寺院である美濃山廃寺があります。

新名神高速道路整備事業に伴い平成27年度から発掘調査を実施し、過去の7回の発掘調査では弥生時代後期の竪穴建物、古墳、奈良時代の掘立柱建物、時期不明の焼土坑などの遺構と、弥生土器や須恵器、土師器などの遺物が見つかっています。

今回の調査では、弥生時代後期の竪穴建物や飛鳥～奈良時代の掘立柱建物、焼土坑、道路状遺構を検出しました。

## 2. 調査の成果

**弥生時代** 弥生時代後期の竪穴建物9基を検出しました。平面形は円形・多角形・隅丸方形のものがあり、規模は4～9.5mを測ります。竪穴建物内部から谷部へ延びる排水溝が掘られています。

**飛鳥時代** 竪穴建物を3基検出しました。平面形は長方形で、一辺の大きさは約4mと弥生時代のものより小さくなっています。

**飛鳥～奈良時代** 掘立柱建物を27棟検出しました。平成29年度調査地のものを合わせると35棟となります。掘立柱建物の分布を見ると、調査地北東部・中央部・南西部の3群に分布します。それぞれ5～15棟の建物で構成されますが、建物が重複・近接していることから、同時期に存在していたのは数棟と考えられます。建

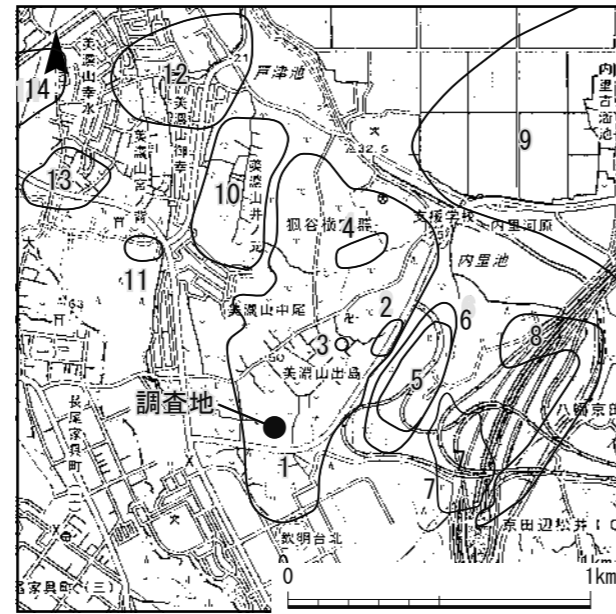


図1 調査地位置図(国土地理院 S=1/25,000 淀)

- |              |             |              |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. 美濃山遺跡     | 2. 美濃山横穴群   | 3. 美濃山王塚古墳   |
| 4. 狐谷横穴群     | 5. 美濃山廃寺    | 6. 美濃山廃寺下層遺跡 |
| 7. 荒坂遺跡      | 8. 女谷・荒坂横穴群 | 9. 新田遺跡      |
| 10. 金右衛門垣内遺跡 | 11. 宮ノ背遺跡   | 12. 幸水遺跡     |
| 13. 西ノ口遺跡    | 14. 備前遺跡    |              |

物の多くは桁行3間、梁行2間のもので、北東・中央の小群内には倉庫(2間四方)と考えられる総柱の建物が1ないし2棟分布します。掘立柱建物1のみ他の建物と空間を開けて単独で分布しており、構造・規模とも他の建物と異なります。規模が大きな身舎と、南東方向に廂を持ちます。

また、調査地西端部分で東西方向に並行する2本の溝1～3を確認しました。溝の幅は1.5～2m、深さ約0.3mで溝の間には約3mの空地があります。この溝はさらに西方向へ延びていきます。これらは側溝と路面で構成される道路となる可能性があります。

建物の他に、内部の壁面や底面に火を受けた焼土坑を15基確認しました。これらは調査地内に点在しており、出土遺物の無い時期不明のものがほとんどですが、飛鳥～奈良時代の溝や掘立柱建物に削られていたり、奈良時代の土器が廃棄されたりするものが存在することから、掘立柱建物群と同時期のものと判断されます。土坑の規模は長さ0.2～2.8mと幅があり、焼土の範囲も径1m未満のものから床面全体に及ぶものがあり、焼土の硬化の度合も異なります。焼土坑の用途はよくわかりませんが、焼土坑2の内部には炭が遺存しており、木炭窯として用いられたと考えられます。なお、昨年度調査で確認した焼土坑5・6は、掘立柱建物28内部に位置し、鉄器作りの際に排出される小さな鉄片や鍛冶滓と呼ばれる鉄の塊が出土しているため、屋内に設けられた鍛冶炉と判断されます。焼土坑は様々な用途があったと考えられます。

**出土遺物** 弥生時代から奈良時代の遺物が出土しています。特徴的な遺物として、飛鳥時代の土馬が約70点出土しました。奈良時代の遺物には、土師器・須恵器などの日常雑器のほか、瓦片・ひさご形土製品・土馬などの一般的な集落からは出土しない遺物が出土しています。

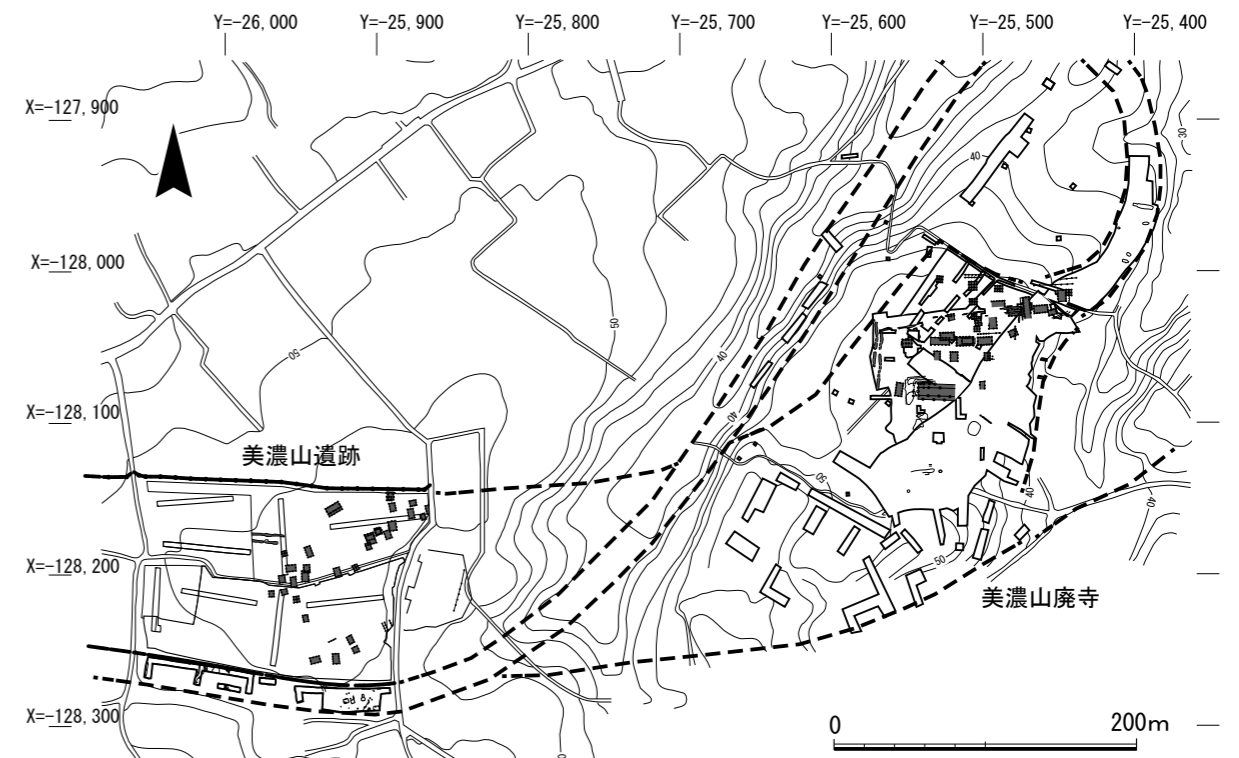


図2 美濃山遺跡と美濃山廃寺の位置関係

## 3. まとめ

広い範囲を調査し、大きく3群に分かれた多数の掘立柱建物を検出しました。これらの建物群は建物の建て替えに伴い近接して建てられた結果と考えられ、2～3棟の建物が飛鳥～奈良時代にかけて連続と存続していたものと推定されます。

掘立柱建物はほぼ南北に建てられた梁行2間、桁行3間の小規模なものが多いこと、各小群に倉庫と判断される建物が付随すること、飛鳥時代を中心に土馬が多数出土していることなどから、一般的な集落とは考えにくいものです。また、鍛冶炉を操業し鉄器を生産していたことや、多数の木炭窯が分布していることから、鉄製品などを生産する専門的な工人のムラと考えられます。

今回の調査で出土したひさご形土製品は美濃山廃寺でしか出土が確認されていない土製品であり、瓦片の出土とともに美濃山廃寺との物や人の往来を示しています。美濃山遺跡の工人達は奈良時代には、美濃山廃寺に生産品を納めていたと考えられます。

古代の工人が営んだ集落と古代寺院の関係を示す重要な成果を得ることができました。

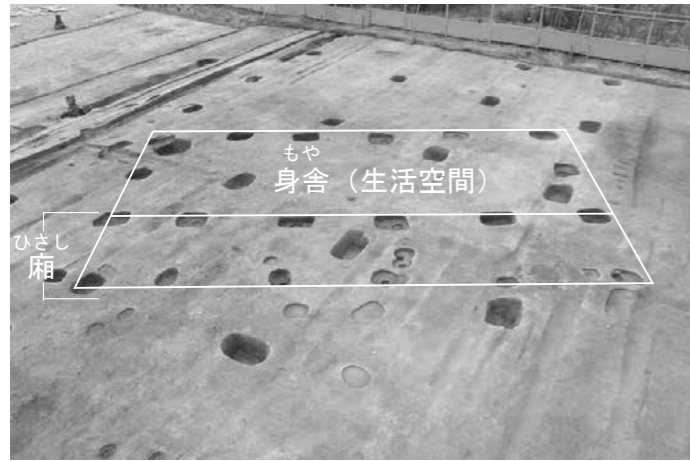


写真1 掘立柱建物1 (南東から撮影)

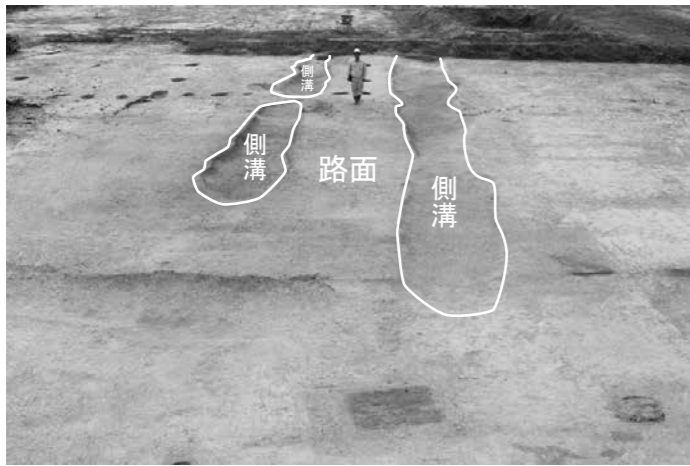


写真2 道路状遺構 (溝1・2・3) (東から撮影)

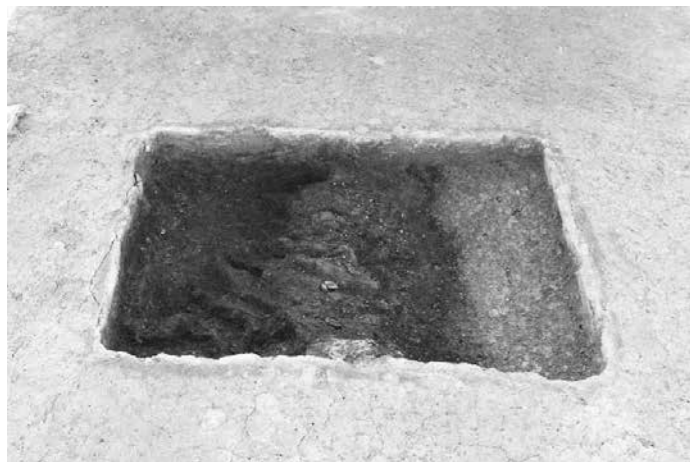


写真3 焼土坑2 (木炭窯) (東から撮影)

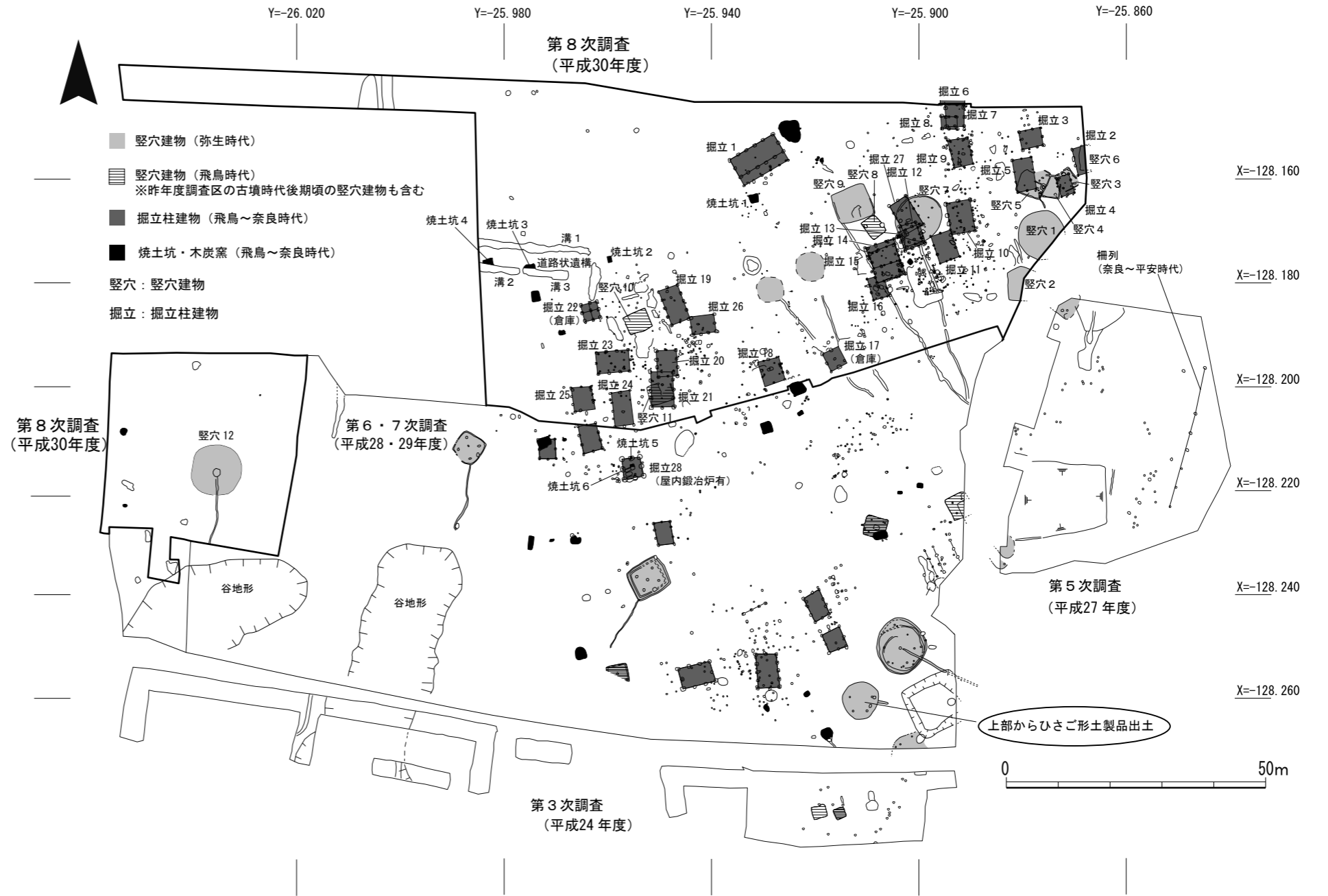


図3 平成30年度調査区と周辺調査 遺構平面図



写真4 土馬 (8世紀)  
齋宮跡出土『日本の美術』361  
古墳時代後期から平安時代にかけて作られました。雨ごいなどの祭祀で使用されたと考えられます。平城京などの都城や一部の集落でしか出土せず、状態も胴体や脚などの体の一部だけが出土する例が多く見られます。

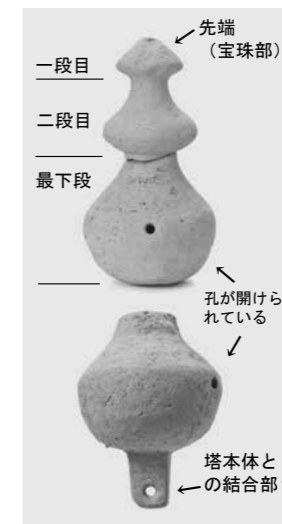
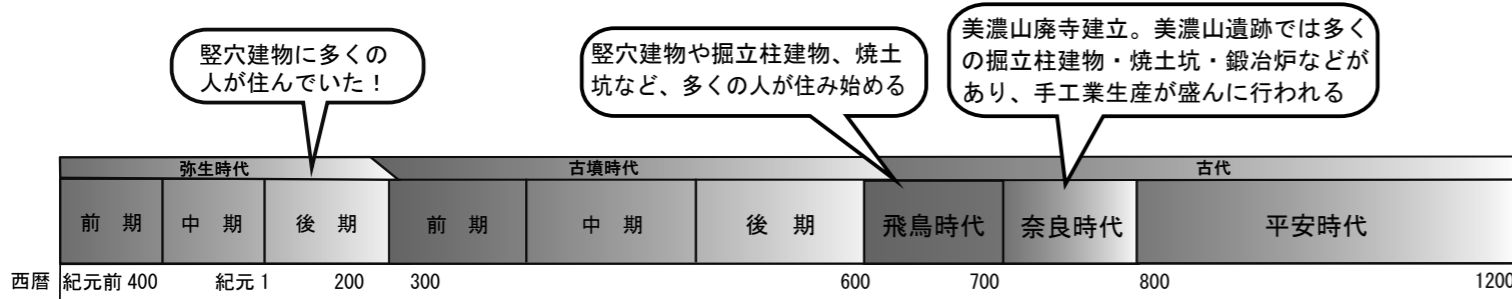


写真5 ひさご形土製品  
美濃山廃寺出土  
美濃山廃寺だけで出土する特徴的な遺物です。小型の塔の先端部分と推定されていますが、塔本体は見つかっていません。写真上部のものは高さ約17cm、最大幅約10cmを測ります。美濃山廃寺では28点出土しており、特に金堂推定地周辺から多く出土してました。



付表 美濃山遺跡・美濃山廃寺関連年表

縦穴建物に多くの人が住んでいた!

縦穴建物や掘立柱建物、焼土坑など、多くの人が住み始める

美濃山廃寺建立。美濃山遺跡では多くの掘立柱建物・焼土坑・鍛冶炉などがあり、手工業生産が盛んに行われる